

# 道東自動車道開通後の 利用状況とその効果

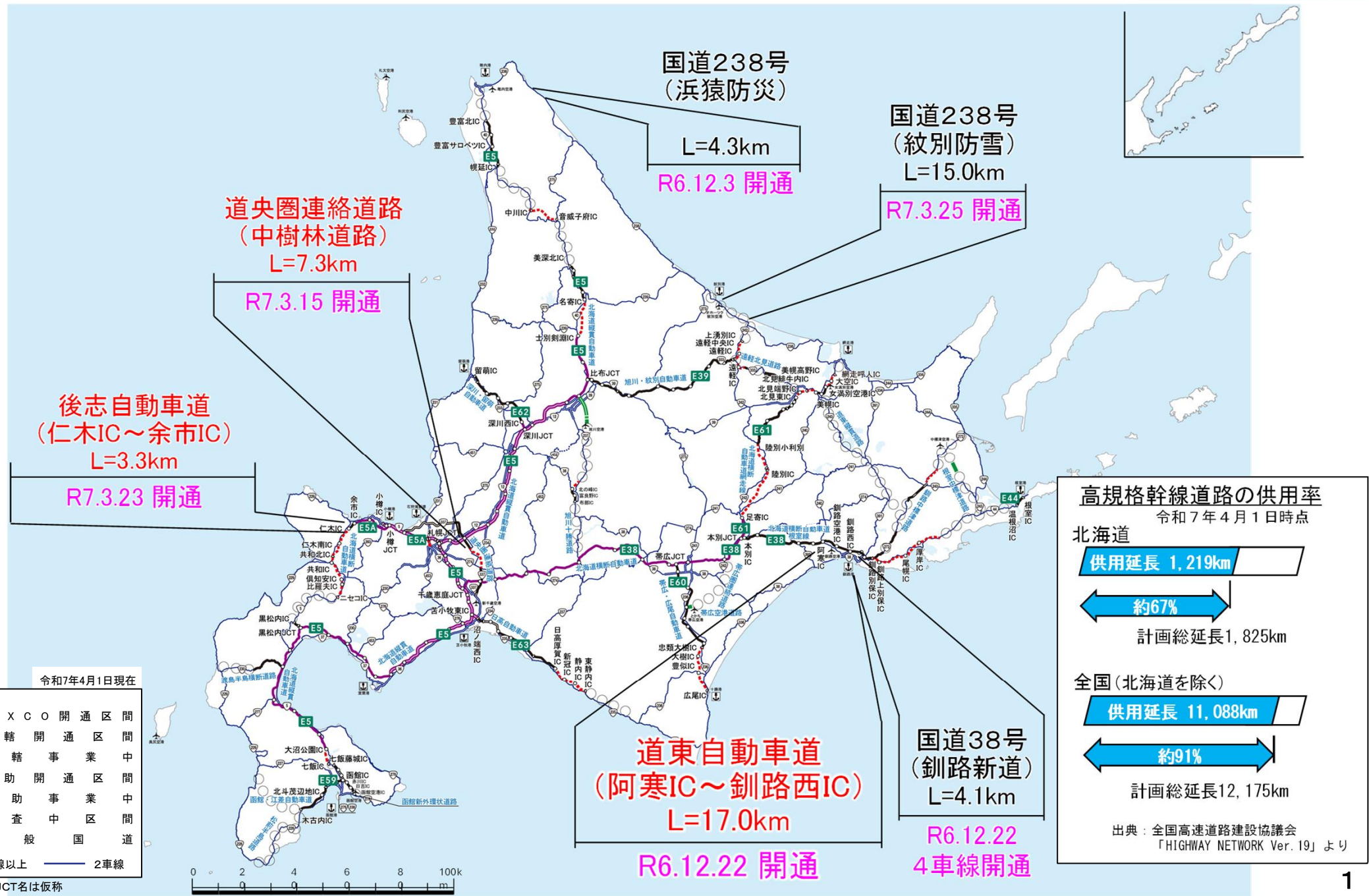
---

共に北海道の未来を創る  
第9期北海道総合開発計画



北海道開発局ホームページへはこちらから。

# 令和6年度 開通箇所





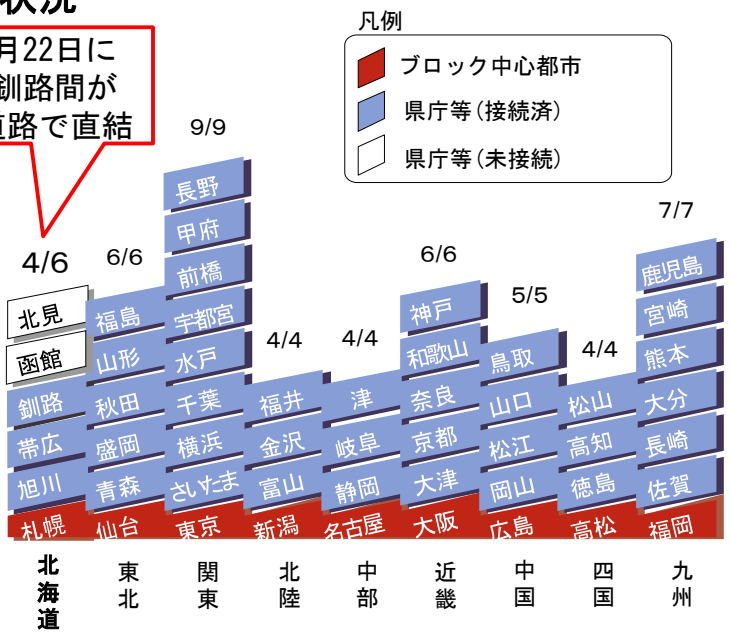


# 高規格道路の整備による所要時間の変化

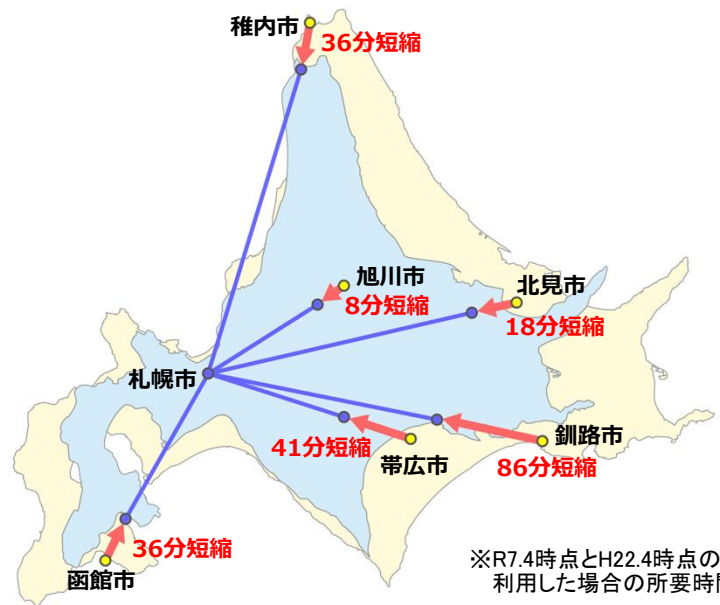
- 令和6年12月22日に、道東自動車道阿寒IC～釧路西IC間が開通し、札幌と釧路がついに直結。
- 札幌⇄釧路間（往復）の所要時間は、一般道利用時に比べて約5時間短縮。
- 札幌と他の都市間の所要時間も高規格道路の整備に伴い、平成22年時点に比べて短縮。

## ■高規格道路によるブロック中心都市と県庁所在地等とのアクセス状況

R6年12月22日に  
札幌と釧路間が  
高規格道路で直結



## ■都市間の所要時間の変化（H22に対するR7の所要時間）



※R7.4時点とH22.4時点の高規格道路を利用した場合の所要時間の差を比較

## ■札幌⇄釧路間（往復）の所要時間の変化

一般道利用（道路整備前）	13時間12分
本別IC-浦幌IC間開通後	11時間12分 <span>2時間短縮</span>
浦幌IC-白糠IC間開通後	9時間4分 <span>4時間8分短縮</span>
白糠IC-釧路IC間開通後	8時間38分 <span>4時間34分短縮</span>
阿寒IC-釧路空港IC間開通後	8時間24分 <span>4時間48分短縮</span>

往復で  
約5時間 短縮

資料：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査（国土交通省）  
※札幌市役所～釧路市役所間について朝夕（混雑時）の旅行速度を用いて算定。  
阿寒IC～釧路西ICの旅行速度は、70km/hで算出。

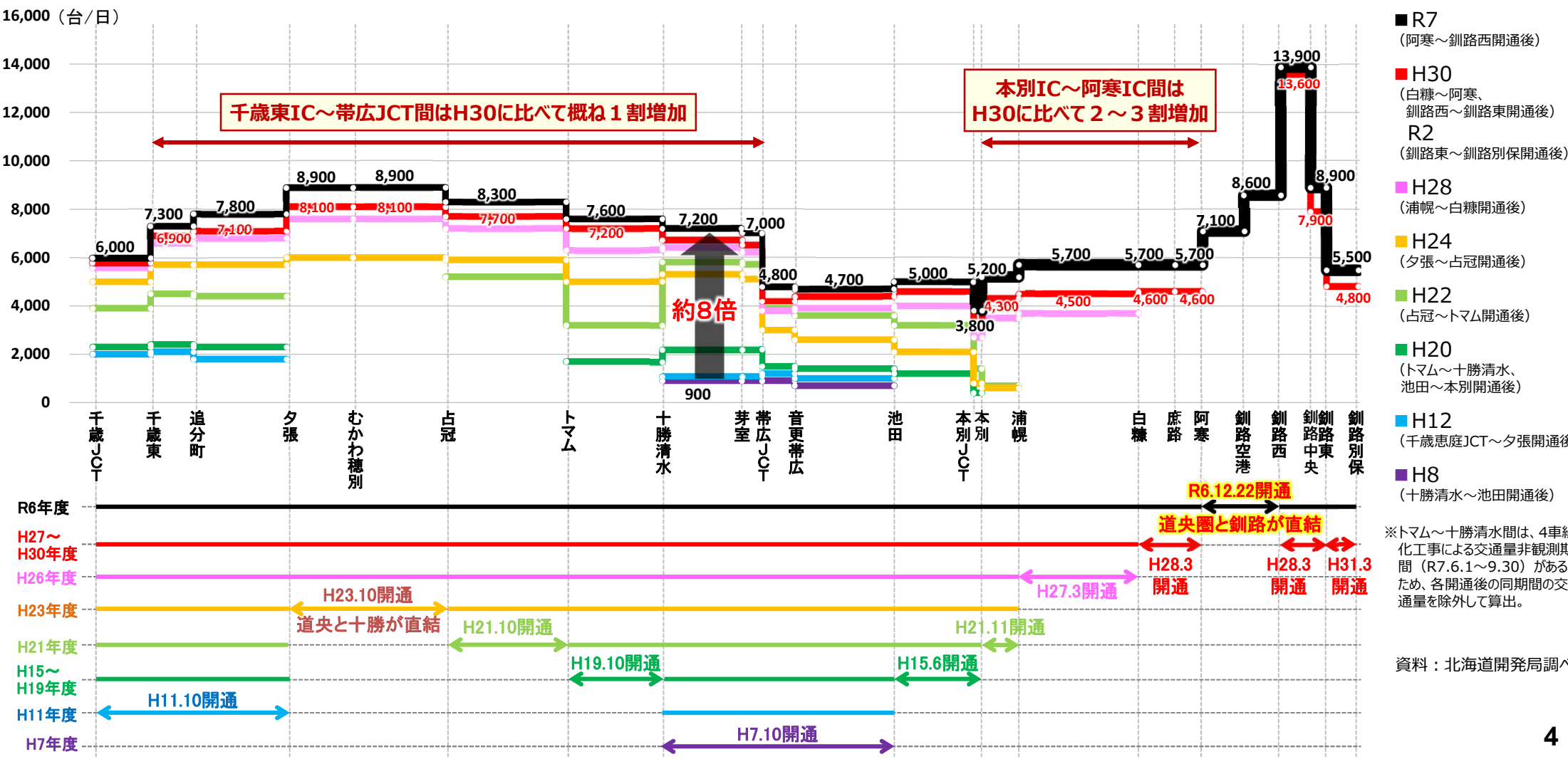
	旅行時間 （R7.4.1時点）	H22.4.1時点からの 短縮時間
札幌～帯広	2時間37分	41分
札幌～釧路	3時間59分	1時間26分
札幌～函館	3時間56分	36分
札幌～北見	3時間57分	18分
札幌～稚内	4時間52分	36分
札幌～旭川	1時間46分	8分

資料：平成22年度・令和3年度全国道路・街路交通情勢調査（国土交通省）  
※札幌市役所～各市役所間について昼間12時間平均旅行速度を用いて算定。  
阿寒IC～釧路西ICの旅行速度は、70km/hで算出。

# 道東道開通後の交通量の変遷

- 道東自動車道は平成7年10月に十勝清水IC～池田ICが開通し、その後、順次開通・延伸。
- 令和6年12月に阿寒ICから釧路西ICが開通し、道央圏域～十勝圏域～釧路圏域がつながった
- 令和7年の十勝清水IC～池田IC間の交通量は平成8年と比べて約8倍に増加。
- 本別IC以东の交通量も増加傾向にあり、令和7年は5,000台/日以上が利用。

▼道東自動車道 各区分開通後の交通量 (各年1～9月の平均交通量)



# 道東道沿線の工業団地立地状況

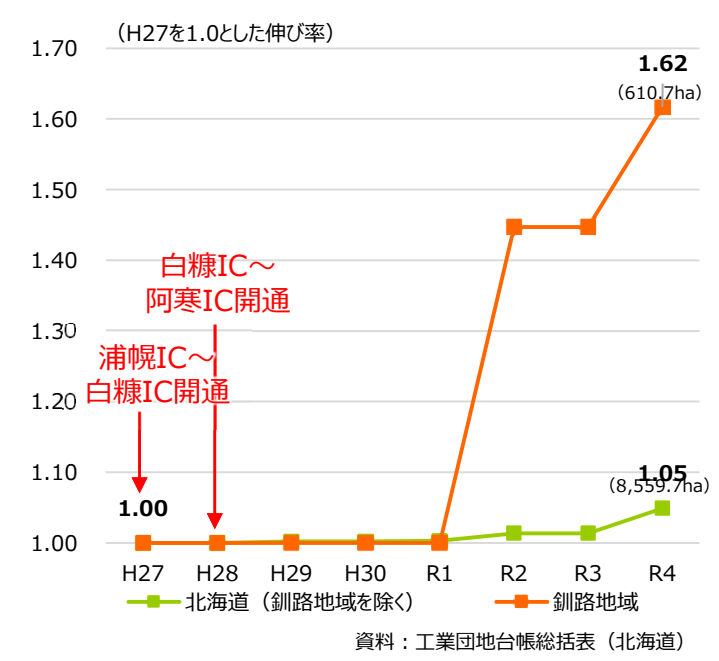
○道東自動車道の延伸に伴う交通利便性の向上等により、釧路管内では工業団地の分譲済面積が増加。  
○阿寒IC～釧路西IC間の開通に伴い、釧路市では新たな工業団地の候補として、道東自動車道のIC付近を検討中。

## ▼釧路地域の工業団地立地状況

- 工業用地・工業団地（10ha以上）
- R2以降に分譲面積が増加した工業団地



## ▼工業団地の分譲済面積（伸び率）



声 釧路市役所

これまでの道東道延伸等のインフラ整備により、釧路市内では製造工場や物流拠点・倉庫等の新規立地・設備投資が促進されてきました。  
道東道が釧路まで延伸されたことを受け、新たな工業団地の候補として、市内のIC付近を検討中です。  
(現在の釧路市内の工業団地の分譲率は98%)

資料：工業用地データ（2009年）（国土数値情報）を基に、工業団地台帳総括表（2022年）（北海道）の情報に更新

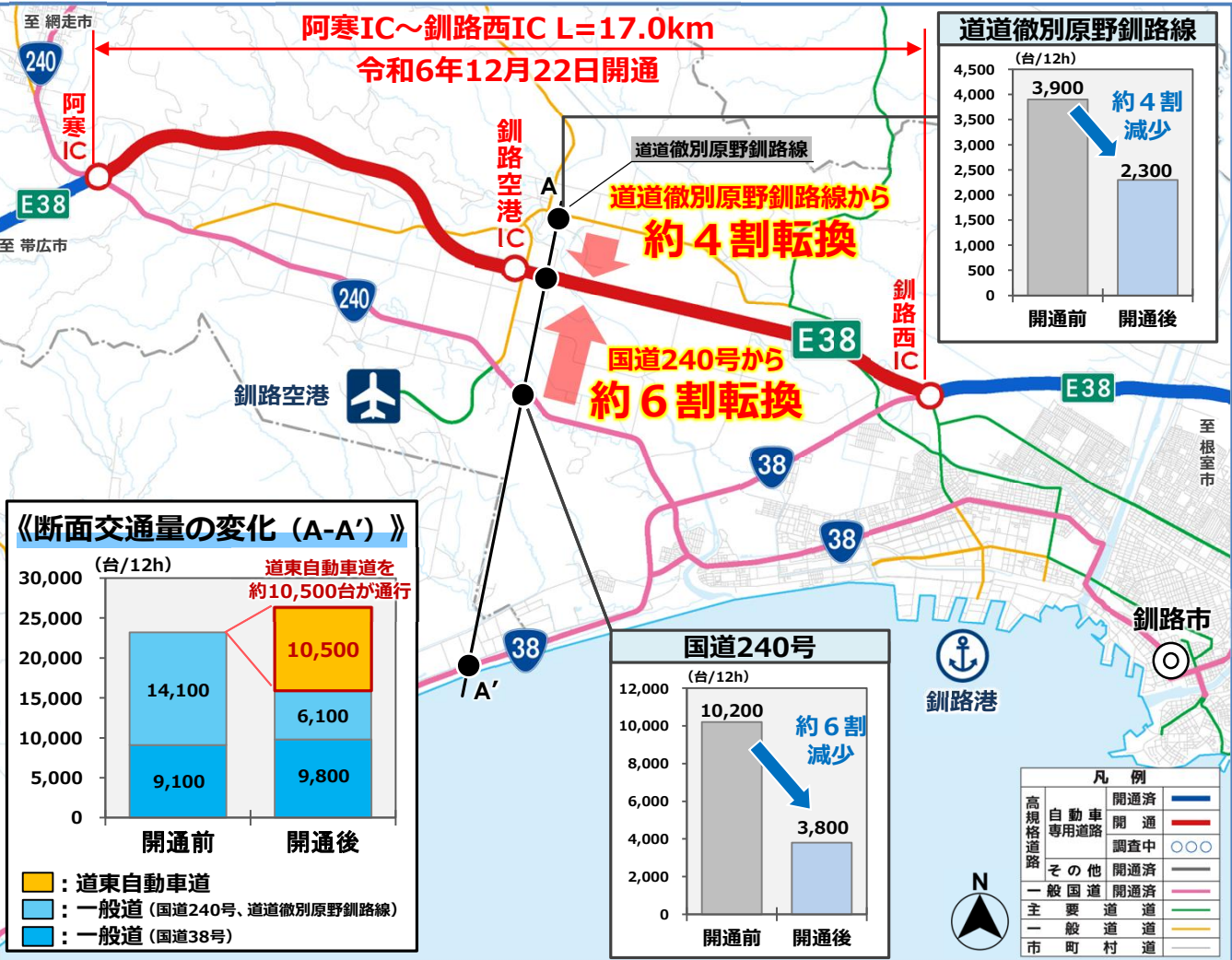


# 釧路地域の断面交通量、交通安全性の変化

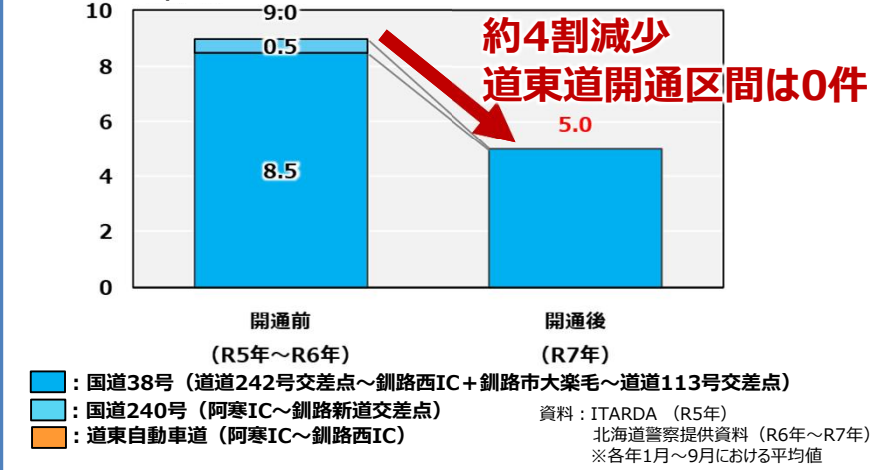
○お盆期間の交通状況は、阿寒IC～釧路西ICの開通区間に並行する一般道(国道240号、道道徹別原野釧路線)を利用する**交通の約4～6割が道東自動車道に転換**しており、開通区間の断面(A-A')の12時間交通量が増加。

○阿寒IC～釧路西ICの開通により、**並行する国道240号や国道38号の交通事故が減少**し、安全性が向上。

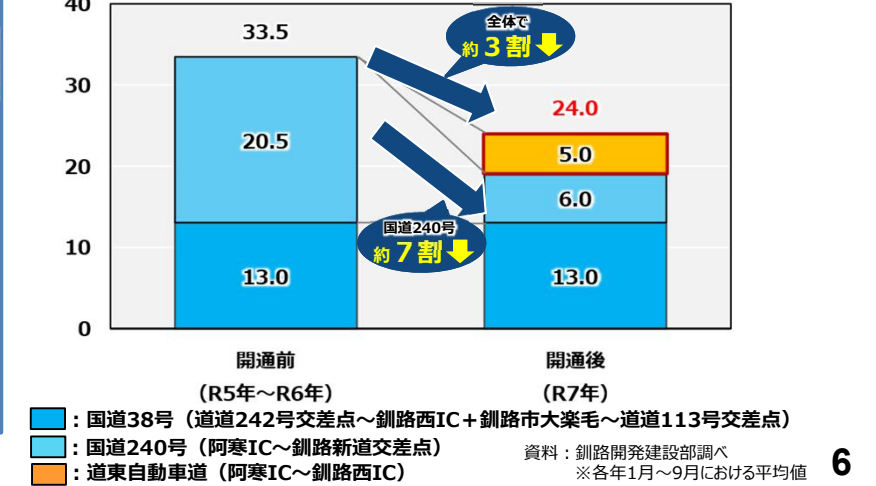
## ▼断面交通量の変化



## ▼道東道開通区間及び開通区間に並行する国道における死傷事故件数の変化



## ▼道東道開通区間及び開通区間に並行する国道におけるエゾシカ衝突事故件数の変化



※ 開通前 令和6年8月10日(土)～令和6年8月18日(日)の平均12時間交通量 (7:00～19:00)  
※ 開通後 令和7年8月9日(土)～令和7年8月17日(日)の平均12時間交通量 (7:00～19:00)

# 十勝・釧路地域の観光入込客数が増加

〇十勝・釧路地域の観光入込客数は占冠IC～トマムIC、夕張IC～占冠IC開通以降、増加傾向。コロナ禍を経て、同地域の令和6年度の観光入込客数は過去最高※を記録。

※1996年以前と1997年以降は調査方法が異なり、経年比較できる1997年以降の調査方法において過去最高

## ▼道東自動車道の延伸

1995年（平成7年） 十勝清水IC～池田IC開通



2011年（平成23年） 夕張IC～占冠IC開通



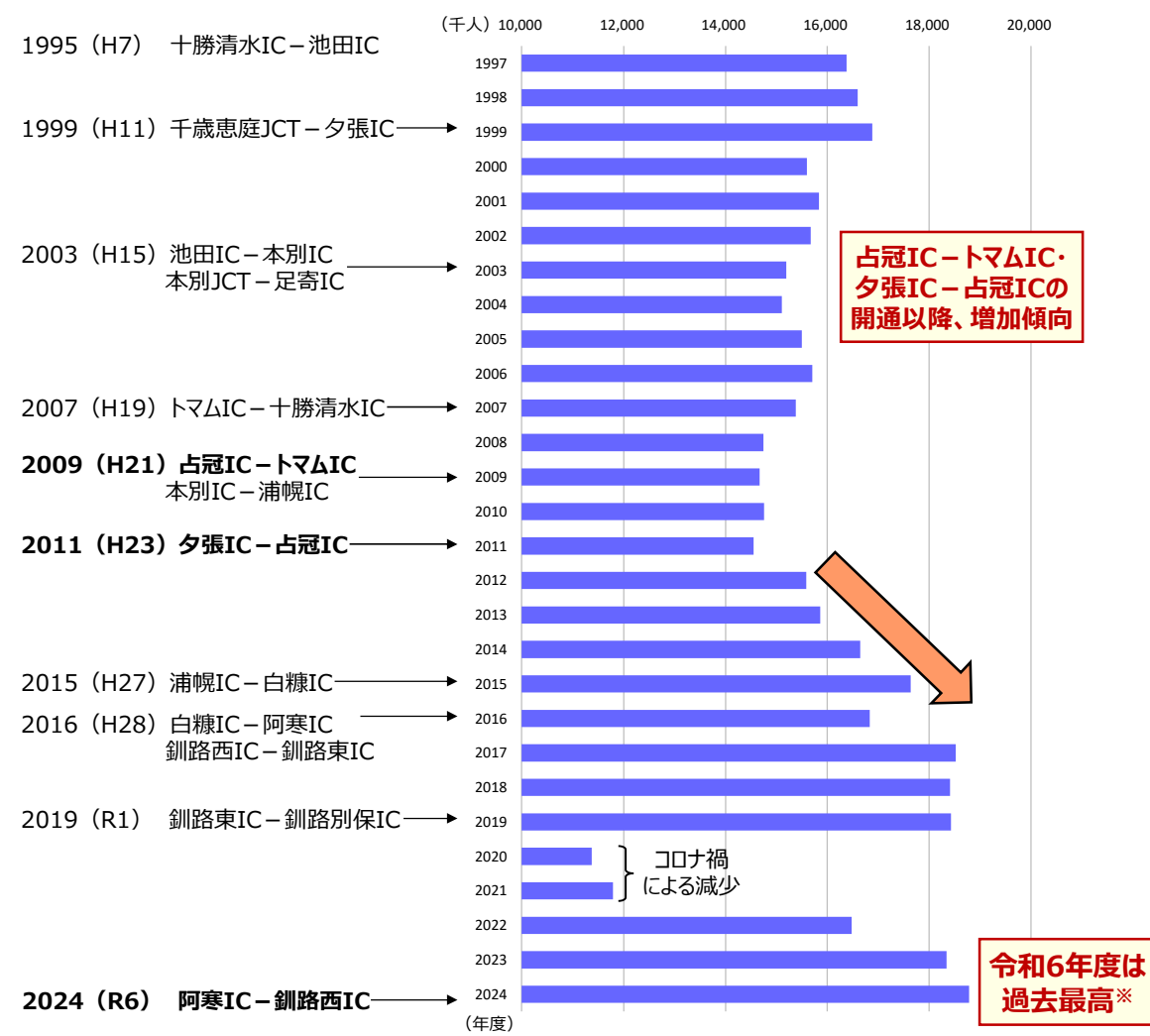
2016年（平成28年） 白糠IC～阿寒IC開通、釧路西IC～釧路東IC開通



2024年（令和6年） 阿寒IC～釧路西IC開通



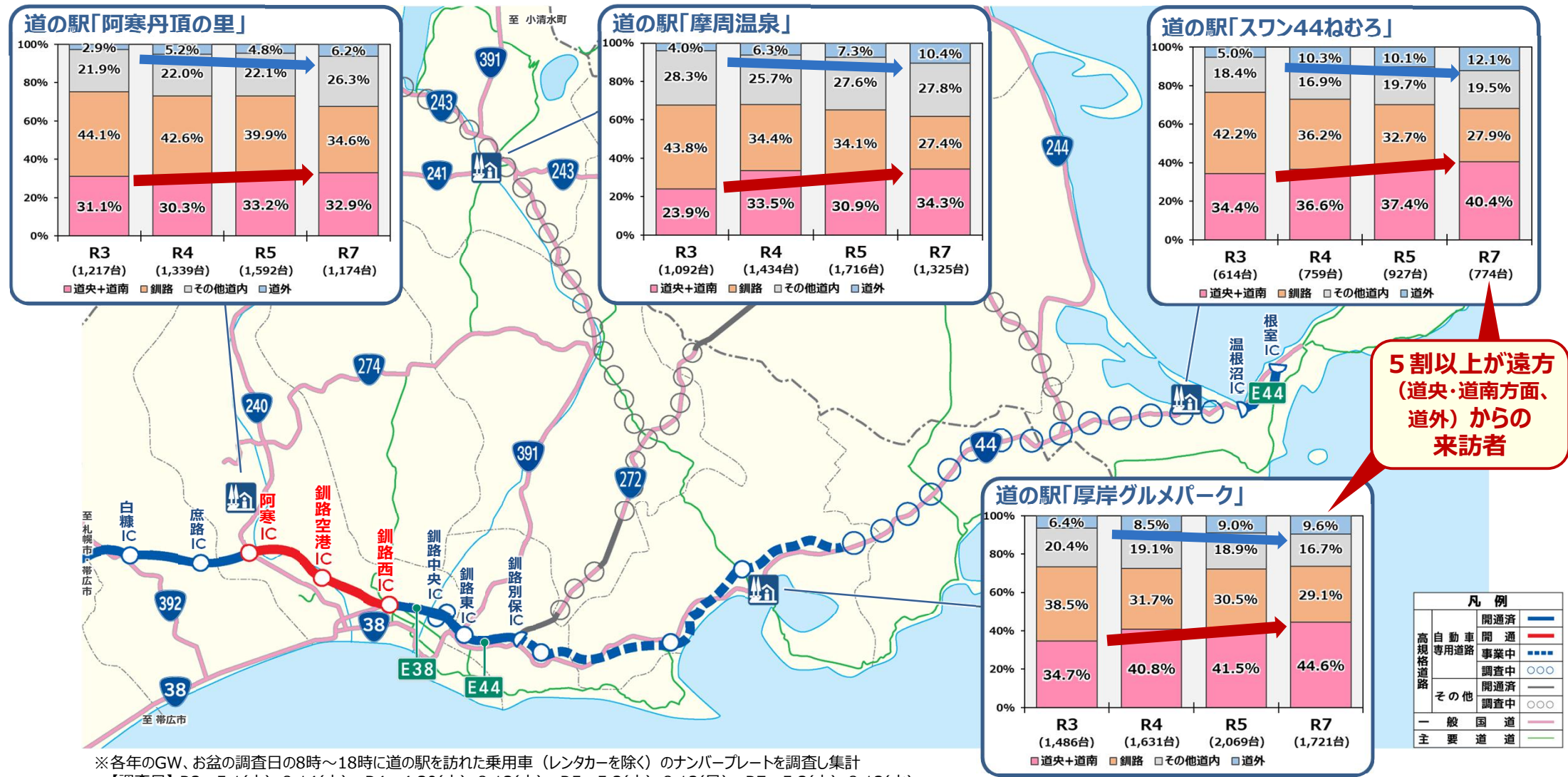
## ▼道東自動車道の延伸による観光入込客数の変化





# 観光期に釧路・根室地域への遠方からの来訪者割合が増加

○観光期(GW、お盆)の釧路・根室地域の道の駅来訪者は、道央・道南方面や道外からの割合が増加傾向。  
○道の駅「厚岸グルメパーク」や道の駅「スワン44ねむろ」では、5割以上が道央・道南方面や道外といった遠方からの来訪者。



※各年のGW、お盆の調査日の8時～18時に道の駅を訪れた乗用車（レンタカーを除く）のナンバープレートを調査し集計  
【調査日】R3：5.1(土)、8.14(土) R4：4.30(土)、8.13(土) R5：5.3(土)、8.13(日) R7：5.3(土)、8.13(水)  
道央+道南は札幌・函館・室蘭・苫小牧、釧路は釧路、その他道内は帯広・北見・旭川・知床・十勝のナンバープレートを集計

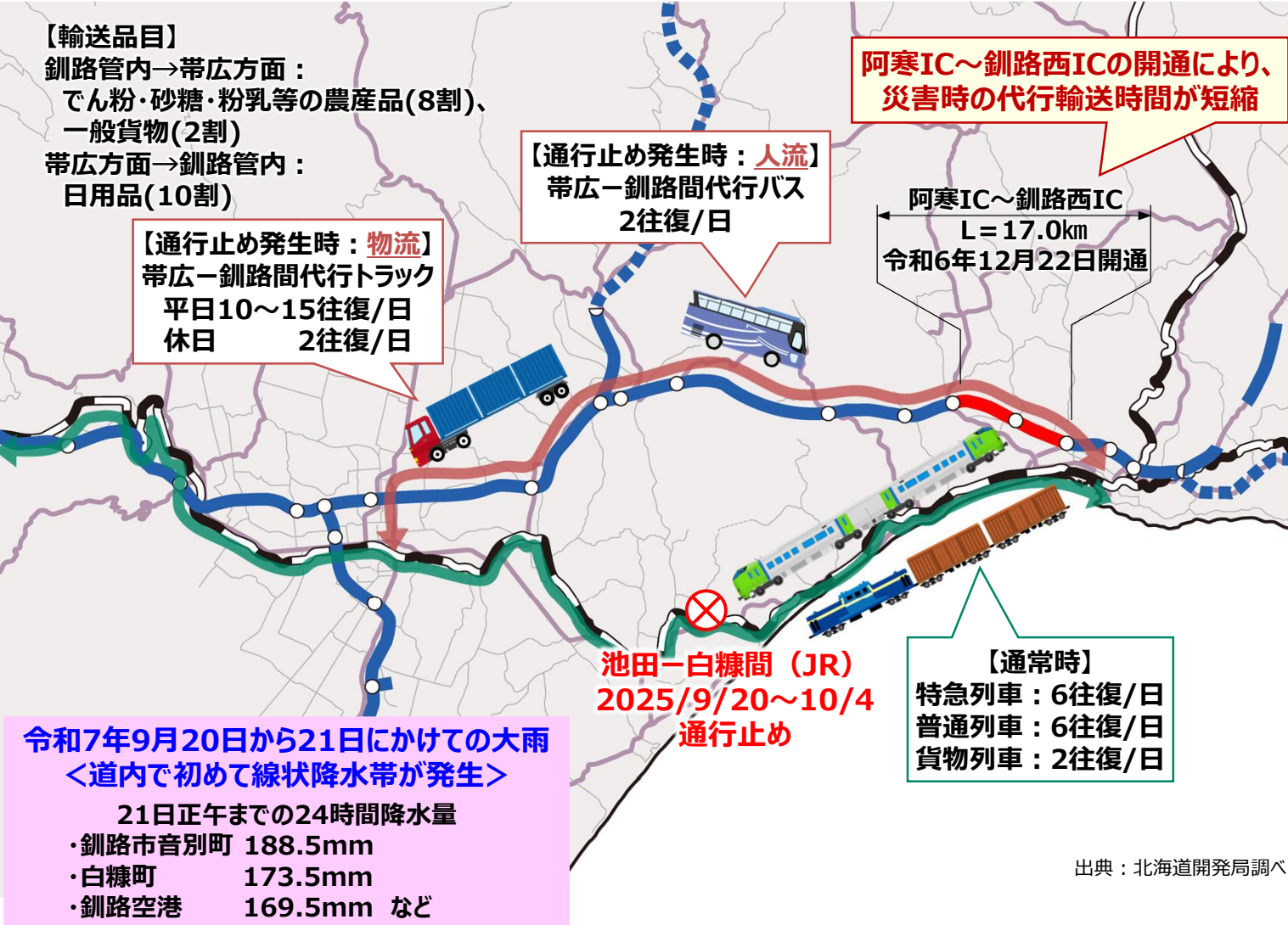
5割以上が遠方  
(道央・道南方面、  
道外) からの  
来訪者

# 災害時における代行輸送により人流・物流の維持に貢献

○北海道で初めて線状降水帯が発生した令和7年9月の大雨によるJR運休時には、道東道の本別IC～釧路空港IC間も21日4時台から通行止めとなったが、翌22日3時には本別IC～阿寒ICの通行止めを解除。

○大雨の翌日の22日からは道東道を利用した旅客・貨物の代行輸送が行われ、人流・物流の維持に貢献。

## ▼大雨によるJR運休時の人流・物流動向（令和7年9月20日～10月4日）



**声 物流事業者**

- 豪雨が発生したR7.9.20の翌々日となる9.22から10.4までの期間中、トレーラーによる代行輸送を6社以上の輸送業者に委託した。
- 帯広－釧路間における災害発生時の代行輸送は、阿寒IC～釧路西IC開通前は国道38号を主に利用していたが、**R7.9.20からのJR運休に伴う代行輸送では、輸送距離および輸送時間が短縮され、輸送効率が大幅に改善されたことから道東道を利用した。**
- 災害時の代行輸送ルートを選択肢が増えることは大きなメリットであると感じる。

**声 バス事業者**

- 災害などに伴うJR運休時の代行輸送は、以前は国道38号から白糠町経由で釧路方面に向かうことが多かったが、**R7.9.23からの代行輸送は、道東道を利用して帯広駅－釧路駅間を輸送した。**
- 道東道の開通により釧路駅へ向かう際の時間短縮と定時性の効果が大い**と感じている。
- 代行バス利用者から、「釧路駅まで早く着けた」との声も聞こえてきており、お客様も道東道開通による時間短縮の効果を感じているのではないかと思います。

出典：北海道開発局調べ